ボランティア通信「きぼう」

２０２２年８月号
発行：ＮＰＯ法人在宅ホスピス
ボランティアきぼう

山梨県北杜市高根町長澤 2467-11
https://www.volunteer-kibou.org
info@volunteer-kibou.org

「八ヶ岳で最期まで」講演会 開催される

NPO 法人在宅ホスピスボランティアきぼう主催（協力：一般社団法人だんだん会・株式会社 AOB 慧央グループ、助成：公益財団法人在宅医療助成勇美記念財団）の公開講演会「八ヶ岳で最期まで～老いても病んでも自分の家で生きる～」が 2022 年 7 月 16 日、北杜市小淵沢の女神の森セントラルガーデンで開催されました。NPO 法人きぼうとしては、北杜では初めて開催する講演会です。コロナ禍のため、700 名入る会場に定員 200 名としましたがお申し込みが相次ぎ、当日は座席を増やして対応しました。雨天にも関わらず、222 名の方が参加してくださいました。

基調講演：川越厚医師「あなたの希望に最期まで寄り添う在宅ケア」

川越厚医師

基調講演は、森の診療所医師・在宅ホスピス研究所パリアン代表の川越厚さんで、テーマは「あなたの希望に最期まで寄り添う在宅ケア」。

（講演内容要旨）納得のいく老いと死を手にするために、医師の立場でどういうことができるかをお伝えします。自分の老いとか死を迎えるためには、終の棲家の確保、そして絶対必要なのが家族の納得（特に子供さんの納得が大事）、医療者も納得することです。在宅ホスピスケアの考え方では、家族というのはケアをする人と同時に受ける人でもあるので、納得のいくといくというのは、本人だけでなく家族も納得しなければいけないのです。

患者さんと家族は、いわば台風の中で揺れ動いている難破船にいるようなもので、医療者はこの舟の乗り込んで静かで安全な所へ導いて、患者さんと家族を最期まで見守るというのが医療者の役目の大きなポイントです。

患者さんの残された時間がどれくらいあるのか家族に伝えるのも大きな役目です。がん、非がんの患者さんは残された時間が異なりますので、伝える言葉も使い分けます。

在宅ケアには、①苦痛を緩和する②必要でない検査や措置は行わない③本人・家族の希望を実現するという目標があります。

1992 年に自宅でも医療が受けられるようになって、その後、訪問看護、訪問薬局が制度化され、「自分の家で生きる」を選択した患者さん家族を支援する体制が整いました。

どう生きたいのかを明確にし、家族の納得を得て、その中で実現できる過ごし方を決めて、最終的に「ああ、よかった」と思える最期が迎えられるのが大事です。

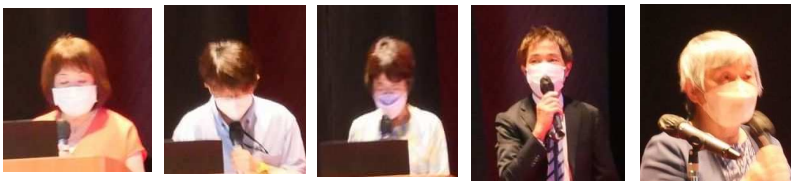
基調講演の様子

「老いても病んでも自宅で生きる」ための支援をしている方々のお話

北杜市で現在在宅ケアサービスに携わっている皆さんに、おいでいただき、お話いただきました。①八ヶ岳看護ステーション・植松正江さんは、訪問看護とはその人がその人なりに安心して居宅で療養生活が送れるようサポートすることで、住み慣れた場所で安心して生活するためにどんなことをするのかとか利用方法について説明があった。②一般社団法人だんだん会・伊佐地江美さんは、定期巡回サービスと訪問介護の利用上の違いについて話され、定期巡回で玄関払いが続く中、根気よく対応した事例の苦労話を話された。<2 ページへ>

③うえはら薬局・上原美奈子さんは、処方箋を扱う一般の調剤薬局とは違う、訪問薬局・在宅薬剤師を始めたいきさつと在宅薬剤師の服薬支援の工夫について話された。④アルプス居宅介護支援事業所・浅川成彦さんはケアマネジャーは利用者のケアプランを立てる設計者として介護利用者の相談窓口の役割を担うことについて話された。皆さん具体的な事例を交えながら、わかりやすく説明していただきました。

NPO 法人きぼうの川越博美代表は、法人を立ち上げた思いと活動の原点を説明し、北杜の市民活動グループと一緒になりながら、一人暮らしの人、高齢者の人、在宅療養をしている人、死を前にした人達を支える活動を目指したいと話しました。



お話された方々：左から植松さん、伊佐地さん、上原さん、浅川さん、川越さん

講演会の準備や参加者の体温確認をするスタッフ

４月のつながるサロン「花見の会」

コロナの感染拡大で２０２２年１月～3 月のつながるサロンは休止していましたが、4 月から再開することになりました。4 月のつながるサロンは、花見の会でした。

八嶽神社（左）と桜の花歩道（右）

花見の会は４月１６日に行われ、参加者５名、スタッフ１０名と素朴屋さん１名の１６名が参加しました。

当日は良く晴れて、八ヶ岳連峰の景観は素晴らしかったのですが、桜はといえば、開花が遅い北杜でも見頃はとうに過ぎていて、桜の花びらはほとんど落ちてしまい、八嶽神社へ通じる歩道は花びらで埋まり、さながら“花筏ならぬ桜の花道”になっていました。

つながるサロンは、八嶽神社に隣接した素朴屋さんという建設会社の建物を借りて行いました。川越博美代表の挨拶に続いて、つながるサロンのクリスマス会で美声を披露しました参加者が、若かり日の思い出の歌「飛騨高原の早春（はる）」を独唱してくださり、拍手喝采を浴びました。

用意された特注の弁当を思い思いの場所でとりながら、おだやかなひと時を過ごしました。

つながるサロンの風景

独唱する参加者

飛騨高原の早春（はる）

岩間　純一　詩

白樺（しらかば）の肌温（はだぬく）む音（おと）を　序曲（じょきょく）に
飛騨高原（ひだこうげん）の　早春（はる）は五月（がつ）

心（こころ）つながる　郷愁（きょうしゅう）のうたに
山（やま）の幸（さち）は　今一斉（いっせい）に花（はな）ひらく

母（はは）なる故郷（ふるさと）の　空（そら）は明（あか）るく
飛騨高原（ひだこうげん）の早春（はる）は五月（がつ）

小鳥（ことり）のうたも　みどりに映（は）え
ひと人（びと）は自然（しぜん）の中（なか）に　心（こころ）を洗（あら）う

「飛騨高原の早春（はる）」の歌詞

参加者・スタッフで記念撮影

NPO 法人きぼうの変遷を写真でご紹介

2020年

20.1.18「いのちの唄」を3部合唱で練習する風景。2月1日の遺族会で披露し喝采を浴びる。
代表は北杜でも合唱する会を作りたいと思っています。

2021年

21.3.14　7年間企画運営してきた墨田区の委託事業「がんサロン SAKURA」の最後の開催を終えて、川越代表が花束をいただきました。

21.5.31　21 年間、地域の在宅医療を担ってきたパリアンが 8 月末で閉鎖することになりました。医師、看護師、ヘルパー、事務の皆さんと KH ハウス前での記念写真です。懐かしのパリアンのボードが見つめています(右の写真)。

21.8.27 北杜で初めて行われたこの打ち合わせ会で、NPO 法人きぼうの再開が告げられました。

21.9.17 北杜市での「つながるサロン」第 1 回開催。コロナ禍にもかかわらず 5 名が参加してくださいました。

21.11.25 東京での手作りボランティアの食事会の様子。クリスマス会のプレゼントの作成中にちょっと一休み。

21.12.13 つながるサロンクリスマス会開催。東京の手作りボランティアからクリスマスプレゼントが贈られました。

2022年

22.4.15 俳優の柳生博さんが作った八ヶ岳倶楽部で特製のフルーツティをいただきました。

22.4.16 つながるサロン花見の会。参加者 5 名とスタッフ 10 名で行われましたが、主役である桜が散ってしまっていたことが残念でした。

22.5.27 清里・清泉寮の牧場にて東京の会員と。清里名物ジャージー牛乳ソフトは召し上がりましたか。

聖路加看護大学の学生時代に何度も通った石碑（左）が今も存在していることに感激した有冨さん（右）

22.5.27 柳田邦男先生の講演ビデオの勉強会が終わり、みんなで記念撮影。

22.6.25 勉強会は柳田先生の講演ビデオでした。川越先生の作った野菜を美味しくいただきました。

22.7.16 北杜で初めての公開講演会は、北杜と東京のボランティアが協力して大成功に終わりました。

22.7.16 講演会が無事終了し、後片づけを済ませて、ほっとしているボランティア。

22.7.17 東京に戻るボランティアときぼう事務所の前でパチリ。

後日、勉強会に参加した Y.A.さんから感謝のメールが届きましたので、紹介します。

「楽しく美味しく、そして充実した 2 日間でした。柳田先生の講演(ビデオ)もとても刺激的でした。あれから日野原先生のご著書を引っ張り出して読んでいます。今更ながらパリアンとの出会い、仲間との出会いに感謝しています。

きぼうのホームページ（https://www.volunteer-kibou.org）は北杜のボランティアの大西さんが担当し、活動の予定や報告など日々更新されています。時々のぞいてみてください。

編集後記

コロナ禍の影響で３月に計画していた講演会は７月に延期されましたが、北杜のボランティアの皆さまの活躍により、７月１６日にめでたく開催できました。◆まだコロナの感染拡大が収まらない時期でしたので、参加者が集まるか心配しましたが、杞憂に終わりました。講演会は２００人を超える参加者でした◆「八ヶ岳で最期まで～老いても病んでも自分の家で～」の演題は高齢者率が高い北杜市の方々にはタイムリーな演題だったのかもしれません。とにかく北杜での初めての講演会の成功、おめでとうございます（江口）